

hibernation of the rice stem borer, *Chilo suppressalis* Walker. Jap. J. Appl. Zool. 2: 135~138.

9) 西良太郎・常楽武男 (1967) ニカメイガ予察式の再検討 (第 5 報) 北陸病害虫研究会報 15: 7~11. 10) 高野光之丞・石川元一・深谷昌次 (1953) 2 化期ニカメイ

チュウの発生に因する諸条件について. 病害虫発生予察特別報告 7: 3~24. 11) 八木誠政 (1933) ニカメイチュウ発生予察に関する一考察. 応動雑 5: 121~125.

赤眼ニカメイガの野外における発見記録

鈴木 忠夫 (農林省北陸農業試験場)

1968年6月14日, 新潟県西頸城郡能生町藤崎の水田において, 夜間青色蛍光灯を用い, ニカメイガを採集中に赤眼を持った雄1頭の飛来をみた。眼色は赤色(ルビー色)であり, 体色, 体長(約11mm)は, 普通の雄蛾と特に相違は認められなかった。これらの採集地は日本海岸より約1000m離れた標高100mに位置する棚田地帯であり, メイチュウ防除に主としてBHC剤が使用されている。

赤眼のニカメイガについては釜野*がBHCを人工食餌中に加え, 3世代飼育することにより実験的に作りだし得たことと, ヒメトビウソカについては石井**が野外虫を室内飼育中に赤眼個体の出現をみており, それぞれ

の現れ方は異っているようであるが, 釜野*は遺伝的に赤眼性は単一の劣性遺伝子によって支配されたものであるといている。本邦では従来よりBHCは多量に散布されているが, 未だ野外において赤眼個体が採集されていないようである。よって, 野外における赤眼ニカメイガの初発見記録として掲げておきたい。

種名については農業技術研究所病理昆虫部服部伊楚子技官の同定をいただいた。ここに特記し厚くお礼申し上げる。

* 釜野静也 (1968) 応動昆 12: 224~225.

** 石井卓爾 (1966) 応動昆 10: 64~68.

穂いもちに対する品種の抵抗性検定方法に関する研究

第6報 茎葉剪除による出穂期の調節について

鈴木 幸雄・山田 昌雄 (農林省北陸農業試験場)

イネ品種の穂いもち抵抗性検定は, 感染源の問題, あるいは, 発病の変動を少なくするなどの点から, 現状では, 培養胞子の噴霧接種にたよらなければならないようである。たゞ, この方法は, 品種の出穂期が, それぞれ異なることから, 接種を反覆しなければならない繁雑さがあり, また接種回次ごとに気象環境が異なって来ることから, 検定結果に乱れを生ずる可能性も高い。このようなことから, 出穂期の異なる品種の出穂をできるだけ揃え, 同時に接種することが望まれる。

品種の出穂期を揃える方法としては, 播種期をかえ

る, 長日処理, あるいは短日処理を行なうなどの方法があるが, 本報告は, 生育途中の稲の茎葉を剪除し, 再生させることにより出穂期を揃えることが出来るかどうかについて検討を行なったものであり, また, 出穂した1部の品種について予備的に接種を行ない, 抵抗性検定の可能性についても調査した。

試験方法

供試品種は, 第1表に示したように, 早生品種から極晩生品種までの日本稲17品種である。